

南海トラフ大震災を想定した衛星利用実証実験（防災訓練）について

公益社団法人日本医師会（日本医師会）では、独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA; Japan Aerospace Exploration Agency）および独立行政法人情報通信研究機構（NICT; National Institute of Information and Communications Technology）とともに、下記の通り「南海トラフ大震災を想定した衛星利用実証実験（防災訓練）」を実施いたしました。

日本医師会およびJAXAは、本年1月に「超高速インターネット衛星『きずな』を用いた災害医療支援活動における利用実証実験に関する協定」を締結しております。また、NICTおよびJAXAは、共同で超高速インターネット衛星「きずな」を共同で開発し、東日本大震災の際の通信回線提供等、協力して実験を推進してまいりました。

今回の実証実験は、これら関係機関の取り組みを結集した最初の取り組みで、大災害時に地域の医療を担う都道府県医師会と日本医師会が協力して取り組んだものです。

日本医師会は、今後ともJAXAおよびNICTの協力の下、災害時における多角的なインターネット通信手段の確保を図るとともに、インターネットを利用した災害医療支援活動の検討を行っていく方針です。

記

南海トラフ大震災を想定した衛星利用実証実験（防災訓練）

○ 日時・場所：別添プログラムの通り

○ 実施方法：

- ・愛知県医師会、兵庫県医師会、香川県医師会及び日本医師会に、「きずな」の送受信アンテナを設置
- ・日本医師会TV会議システムを利用して都道府県医師会によるTV会議を開催
(TV会議での参加：42医師会、日本医師会館に来館しての参加：3医師会)

○ 参加者：都道府県医師会災害担当理事、陸上自衛隊、厚生労働省、防衛省

○ 主な内容：

- ・被害想定：中央防災会議 防災対策推進検討会議 南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループによる第1次報告（平成24年8月）、第2次報告（平成25年3月）及び最終報告（同年5月）、「東海地方が大きく被災するケース（地震動：陸側ケース、津波ケース①、冬夕方（18時）、風速8m/s、早期避難低）を基本とし、関係

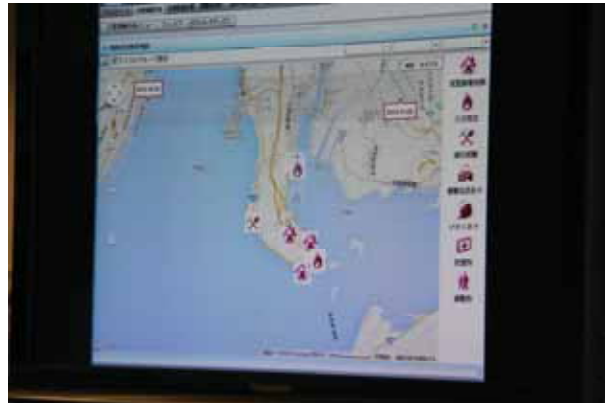
都道府県の独自の被害想定も考慮。

- ・災害発生想定日：20XX年11月19日16時16分（日没の概ね30分前）
- ・マグニチュード9.0
- ・最大震度7（静岡県、愛知県、三重県、徳島県、高知県、宮崎県）
- ・東海地方を中心に、太平洋岸各地で建物倒壊、火災、土砂災害が発生、20メートル以上の津波が東海地方、紀伊半島、四国、九州東岸に襲来。
- ・死者・行方不明者は数十万人に及ぶ見込み。
- ・日本医師会・都道府県医師会によるTV会議（情報の交換、JMAT派遣要請等）の実施
- ・クラウド型災害医療情報システムによる避難所や被災患者等の情報共有

○ 今後：

- ・JAXAによるアンケートの実施、日本医師会によるアンケートの実施（予定）
- ・上記協定に基づく成果報告書の作成
- ・次年度以降、南海トラフ大震災等を想定した防災訓練の継続実施

問い合わせ先：日本医師会地域医療第1課
Tel 03-3942-6137（直）



南海トラフ大震災を想定した衛星利用実証実験（防災訓練）

プログラム

平成25年11月20日（水）

14時～16時30分

日本医師会館504/505会議室

司会：石井 正三（日本医師会常任理事）

- 1．開会 及び 防災訓練開始宣言
- 2．挨拶 及び 防災訓練第1部（災害対策本部設置、JMAT派遣決定等）
 - 横倉 義武（日本医師会長）
 - 柵木 充明（愛知県医師会長）（TV会議）
 - 川島 龍一（兵庫県医師会長）（TV会議）
 - 森下 立昭（香川県医師会長）（TV会議）
- 3．防災訓練第2部
 - 超高速インターネット衛星「きずな」によるTV会議
 - クラウド・コンピューティングによる情報共有、JMATの派遣
- 4．総括 松原 謙二（日本医師会副会長）
- 5．閉会